

# 民有地に約200戸

## 仮設住宅建設はじまる

### 「入居は集落」に変更

公共用地四ヶ所(吉野沢団地81戸、平成の森246戸、伊里前小25戸、歌津中学校35戸)に387戸の建設が完了し、入居の抽選も終わった。

いよいよ民有地への建設がはじまった。

五月二十四日夕方、西城建設課長への取材では、



入居がはじまった仮設住宅(吉野沢団地)



新たな生活を始めた畠山さん



そこで両親が行方不明であると聞かされた。皆寒さに震えていた。灯油があれば暖を取る事ができる。両親を探るか葛藤が続いた。二代目の自分。両親がお客様にお返しをしながらと言っているように聞こえた。スタンドのタンクには、ガソリンも灯油もある。もう迷わなかった。



つつじ園



山頂から太平洋を望む



倒壊した不動明王像

回答であった。ようやく我々が当初から主張していたように変わったようである。

なお、各地域ごとの建設予定戸数は次のとおり。

◇蕪の浜地区 約24戸  
(集会所も建設する)

◇寄木地区 約30戸

◇館稲湖地区 約20戸

◇泊浜地区 約30戸

◇馬場中山地区 約20戸

◇名足石浜地区 約32戸

◇田の浦地区 約13戸

◇港地区 約44戸

合計約213戸となり、公共用地と合わせると600戸となる。今後更に全体的な調整については、各集落の代表者より入居名簿を提出していただき、抽選なしで優先的に入居できるように決定したとのことであった。

### 『仮設住宅快適?』

吉野沢団地仮設住宅に入居が始まった。

先日、親子五人家族の畠山さん宅を訪問しました。玄関を入ると流し、冷蔵庫、テレビ、風呂、洗濯機、エアコン、布団、ほとんどの生活用品が支給されていた。

寝室は四畳半にクロールゼットがセットしてあるため布団二枚で一杯になる。茶の間を使って五人が納まる。手狭であるが、電化製品も設置されており、プライベートも確保でき快適であるとの感想であった。

今後、復興に向けた話し合いや仮設住宅内のコミュニティを因るための集会施設や旧来の住民とのコミュニケーションをどうするか課題である。

### 【津波のバカでもがんばる!】

国道45号線入り口に「津波のバカでもがんばる!」と書かれていたダンボールの看板がある。伊里前の入口で営業するガソリンスタンド三浦石油である。

地震の時、ここまでは津波は来ないと油断した。かろうじて従業員とともに全員高台に避難した。高台から四十五年続いたガソリンスタンドが波に飲まれた我が店を見たときこれはダメだと思ひ、その場で従業員に解雇通告をしたという。その後二ヶ所ほど避難場所を変えたが、空腹に耐えかね、食べ物があるところを探し、歌津中学校に歩いて向った。山手の集落からおにぎりが届いた。美味しかった。

それから緊急自動車を中心に給油を行った。津波の犠牲者が火葬場に行くガソリンがないと訴えてきた。断れない。一般のお客さんへの給油がはじまった。仙台の娘のアルバイトから通った。お客さんは閉店時間の午後三時には次の日の順番を待つて並んでいる。開店時間の九時まで待つてもらえることが偲びず。五時から開店し一人五リものガソリンを給油した。しかし直ぐ並んでしまう。思案の挙句満タンにした。お客さんは安心して徐々に並ばなくなった。今まで支えてくれたお客さんに恩返ししたいと、体の続く限り従業員とともに頑張った。夜中から並んだ長蛇の列がなくなると同時に燃え尽きたのか従業員全員が店を去っていき、今は奥さんと息子さ

る。両親を探るか葛藤が続いた。二代目の自分。両親がお客様にお返しをしながらと言っているように聞こえた。スタンドのタンクには、ガソリンも灯油もある。もう迷わなかった。

しかし、タンクから汲み上げる道具がない。応急のポンプを作り、汲み上げることにした。阪神淡路で手回しポンプや足こぎポンプがあることを思い出し、夜中に仙台まで取りに行った。

それから緊急自動車を中心に給油を行った。津波の犠牲者が火葬場に行くガソリンがないと訴えてきた。断れない。一般のお客さんへの給油がはじまった。仙台の娘のアルバイトから通った。お客さんは閉店時間の午後三時には次の日の順番を待つて並んでいる。開店時間の九時まで待つてもらえることが偲びず。五時から開店し一人五リものガソリンを給油した。しかし直ぐ並んでしまう。思案の挙句満タンにした。お客さんは安心して徐々に並ばなくなった。今まで支えてくれたお客さんに恩返ししたいと、体の続く限り従業員とともに頑張った。夜中から並んだ長蛇の列がなくなると同時に燃え尽きたのか従業員全員が店を去っていき、今は奥さんと息子さ

### 「つじのよこし」

今年もつつじの花が咲きました。

田東山のつつじがいつものように真紅の花を付

んの三人になっていた。行方不明のお母さんが遺体で見つかったが、未だにお父さんは行方不明のままである。二代目三浦文一社長は、両親の意思をついで体の続く限りやろつと店には今日も「いらつしやいませー」の大きな声が響く。

三月十一日をさかいに、時間が止まってしまったかのような日々、気づくと五月も二十日を過ぎた。いつもの年だと「田東山つつじまつり」の季節である。先日、しばらくぶりに山に登った。昨年よりは花の着きは今一つだが、全山紅に染まっていた。何かホッとするものを感じた一時であった。

しかし、登山道も地震により大分傷んでいた。また、三十三観音や不動明王石像は無残にも倒壊し、傷ましいお姿になっていた。

# 議会議員との懇談会を行う

五月十七日午前十時から歌津中学校で町議会議員との懇談会を、議員三名出席のもと開催された。出席議員は・及川均議員・三浦清人議員・山内孝樹議員、欠席者は阿部建議員・高橋兼次議員であった。

はじめに小野寺会長が挨拶を行い、すばらしい歌津をつくる協議会の歴史や設立趣旨について説明がなされたあと、東日本大震災の復旧復興について、議員の皆さんの指導を得て世界に誇れる地域づくりを目指したいとの挨拶があった。

次に懇談に移り、各議員から震災発生から今日までの議員活動について報告がされた。



議会議員と懇談する地区代表者

議会では、議長をはじめ事務局職員が被災したため、議会としての活動はできず、各議員独自の活動に留まり、復旧・復興に向けた特別委員会を組織した。五月二十六日には臨時議会が開催されるので、当局から詳しい被災内容や復旧・復興についての報告があると思う。現在仮設住宅について、いろいろな問題が出ている。横山に建設した仮設住宅は狭く、移転したいとの苦情が出ている。また、入居の方法についても集落ごとに入居させないのか等問題となっている。

◆各集落の代表者から次のような意見が出された。  
◆馬場中山地区  
百五十人を超える避難者が不自由な避難生活が続いている。仮設トイレの汲み取りに来てくれない。排水溝が埋まっているのでどうにかしてほしい。(ボランティアの活用も良いのでは、他の集落からアドバイスがあった)

◆港地区  
職員が沢山亡くなり、行政が麻痺を起こしている。将来支所の廃止に繋がらないか心配

◆泊浜地区  
海のそばに仮設住宅を建設して欲しい旨を要望したが、水道や排水が無いと断わる理由ばかりを話し希望を聞いてくれない。吉野沢団地が抽選で当たったが断った人もいる。

◆婦人代表  
避難所にいる方々に比べ、個人宅に避難している人達には情報が入っていない。

◆港地区  
当局が決定した事以後で文句を言うのではなく、決定する前に意見を申し出るように今後してほしい。

◆泊浜地区  
瓦礫の撤去が進まない。自衛隊にお願いしたが変わらない。

◆石浜地区  
石浜から名足抜ける道路を早く修復するよう働きかけてほしい。

◆ボランティアの活用はどこに連絡すればよいかわからない。

◆農地法等の規制の緩和や多重債務の問題については、本町だけの問題ではないので、他市町と連携して議会から県や国に見書を出しなどの運動を起こし、復興がスムーズに行くようにしてほしい。

各団体からの報告は次のとおり。

◆JA南三陸  
現在吉野沢元給食センターで業務を行っているが、今後金融部門の仕事ができるよう、平成の森進入路沿いに仮設店舗を建設する。六月初旬には営業したい。経済・営農・野菜の集出荷は考えていない。

◆南三陸商工会  
会員のほとんどが被災した。今、津山町で間借りをして業務を行っているが、歌津支所も仮設でも立ち上げた。

◆学校から  
通学方法と手段、マイクロスバス等の活用(交通手段)、自転車置き場の建設(プレハブ)、奨学金等の援助、要保護・準要保護の調査申請、住民への広報のあり方、記録としての広報、報道・情報交換の場(集会所)、調理員・給食のあり方等十二項目について提示された。以上のとおり議員との懇談が行われ、今後も互いに情報の交換をするとともに、新しい町の復興に向けて議員各位の活躍と今後も御指導をお願いしたいとの小野副会長の挨拶で閉会した。

◆度重なる支援に感謝  
国内外から数々の心暖まる救援物資を頂戴いたしました。大変有難うございます。

そんな中、幾度となく炊き出しや救援物資を広い人脈を生かして、南三陸町に届けて下さっている方がおられます。

気仙沼市本吉町在住峰仙寺住職千葉省三老師(高校時代の筆者の恩師)である。

四月二十八日にはスリランカ駐日大使外ご一行をご案内し、紅茶をはじめ多くの救援物資を届けて下さいました。五月十六日には伊里前保育所、名足保育園、伊小、名小、歌津中の子ども達に一人二十本の飲料水、約一万本を、この外にも平成の森をはじめ各避難所へカレーやハンバーガーなど多くの炊き出しの提供を



真中が峰仙寺住職千葉省三老師

いたいております。

この外にも流失した津龍院、西光寺に対しても陰に陽に支援をいただいております。

《収穫されないカキ菜》  
背丈ほども伸びたカキ菜が黄色い花をつけている。隣の畝は見事なニンニク、次が玉ネギ、その次がネギ、そして何も植えられていない畑。ジャガイモを植える予定だったのだろうか？手前には堆肥が積んである。三十坪ほどの小さな家庭菜園(高校時代の筆者の恩師)である。

三月十日まではかわいい孫と祖父母の憩いの場であり、採れたて野菜を摘む笑い声が聞こえた。今は誰もいない。

津波はむごい事をする。じいちゃん、ばあちゃん、お父さん、お母さん、そしてかわいい孫三歳の女の子五人家族であった。残ったのはお母さんただひとり。三歳の孫だけがまだ見つかっていない。今もお母さんは娘を探し、愛用の品々を探す。

主人を失った野菜たちは何事もなかったかのように生長している。小さな畑のそばを通るたびになんともやるせない。涙が止まらない。

**【義援金口座を開設いたしました】**

南三陸町歌津地区の子どもたちの教育のためと歌津地区の復興のため、義援金口座を開設いたしました。ご支援をお願い申し上げます。

歌津地区内の小中学校のために活用する教育基金と、会報「一燈」の発行に要する費用や復興のために活用する復興基金の2種類です。

教育に使ってほしい方は☎と、復興に使ってほしい方は☎とご記入下さい。

口座番号：仙台銀行歌津支店 普通預金 3072091  
口座名義：すばらしい歌津をつくる協議会 会長 小野寺 寛

「一燈」も第四号を迎える。近頃、全国の読者から『送ってください』と手紙が届くようになってきた。

全国の読者のために地名について解説したい。

南三陸町は平成十七年十月一日、旧志津川町と旧歌津町の二町が合併してきた人口約一万八千人の町。歌津地区人口は約五千四百人である。

「歌津」について二説ある。アイヌ語で「オタエツ」が「ウタツ」になったという説。「砂の岬の地」という意味である。もう一つは田東山(標高五二二m。つじの名所。平泉との関係が深い山)の正社より卯辰(東南東)に開けた村の意である。

次に「伊里前」についてだが、「イサ」は「勇」の意で鯨を指すようで、「トマエ」は集まるところ。つまりアイヌ語で「鯨が集まるところ」の意味であると言われている。

参った 参った

## 南三陸町の世帯数と人口

	南三陸町全体		歌津地区	
	世帯数	人口	世帯数	人口
平成 23 年 2 月末現在	5,362	17,666	1,441	5,144
平成 23 年 4 月末現在	5,105	16,476	1,417	4,952

全国のみなさんご支援  
ありがとうございます

